

著者同定に向けた 金沢大学の実験

金沢大学附属図書館 守本瞬
2012/2/14 ワークショップ「研究者と論文とを結びつけるために」

同定しにくい例

Smith, John? (同姓同名)

Obama,

Ozawa,

自動名寄せしにくい例

Soichiro? So-ichiro? Sohichirou?

(異なる標記法)

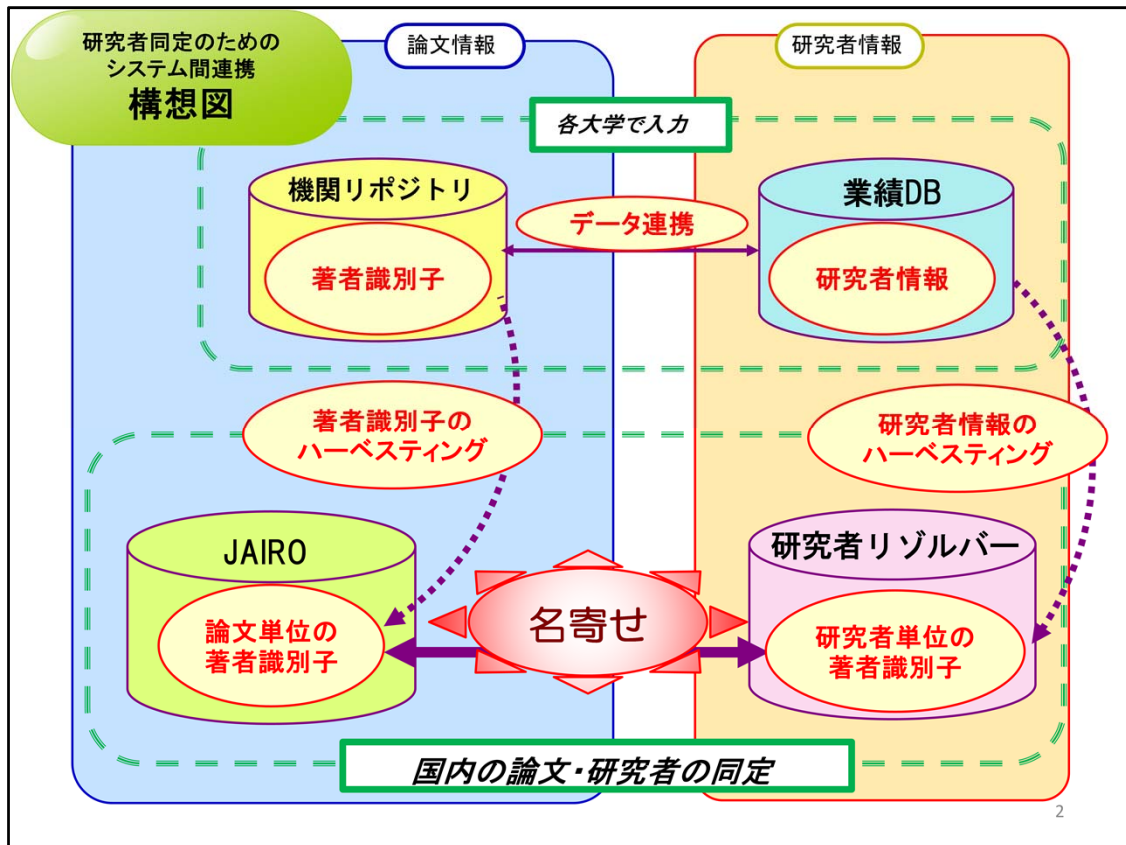
著者にID (識別子) をつけて
管理するのが最適 (異なる字体)

鈴木, 一郎? or Ichiro?

(日本語とローマ字)

Tani, Ryoko? or Tamura, Ryoko?

(改姓)



金沢大学の実験構想図。いわゆる理想。

機関リポジトリから著者識別子をJAIROへ。業績DBから著者識別子を何らかの方法でRNRへ。

図には業績DB→リゾルバーがハーベスティングになっているが、実際には無理。

業績DBと機関リポジトリのデータ連携は、識別子の管理を業績DBが行い、そのデータをもらう。業績DB→業績DBへのリンクも。

この結果「論文と著者とが結び付けられ、相互に利用できるようになり」学術情報の流通が促進される。

金沢大学の 状況

JAIRO

金沢大学は全教員が科研費番号を取得



学外と共通利用できる著者識別子がある



著者識別子を利用した著者の
識別・同定システムの構築実験を行う環境

金沢大学が手を挙げた理由。JAIRO編。

金沢大学の 状況

研究者
リゾルバー

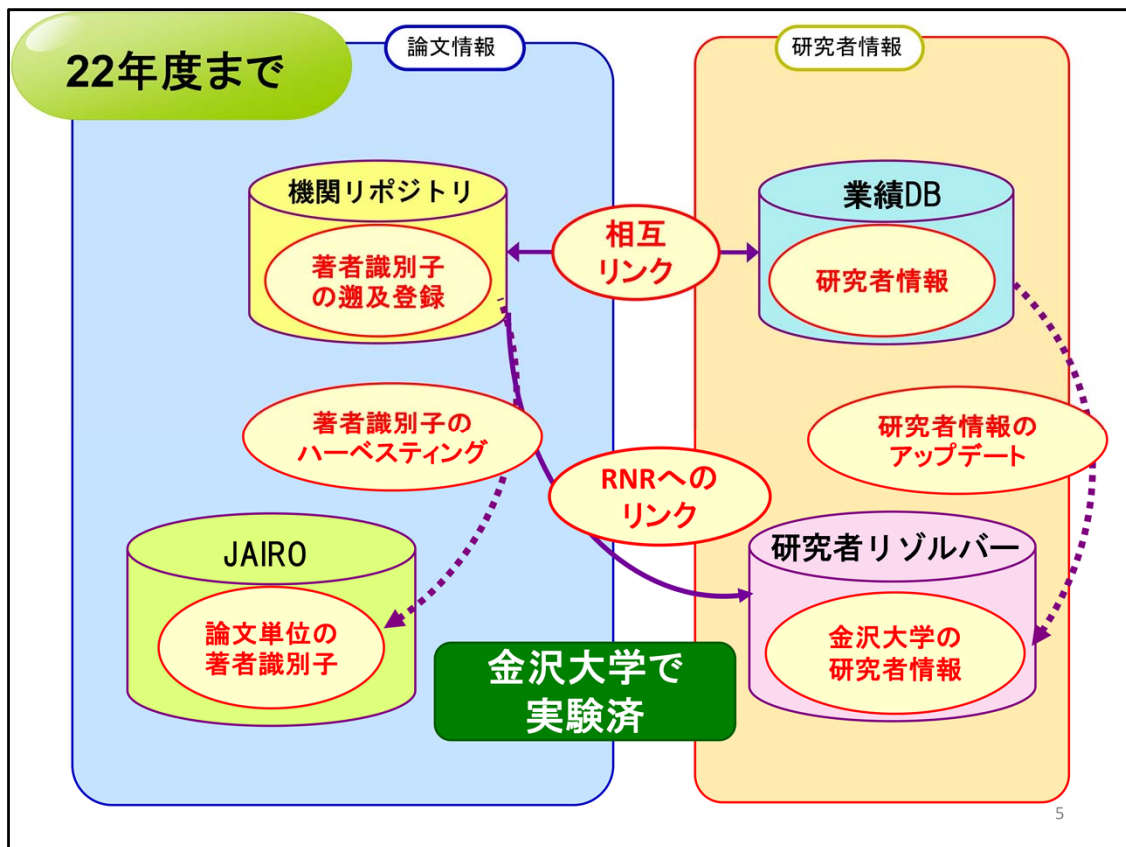
金沢大学は業績DBを構築済

研究者情報の元となるデータベースがある

研究者情報を利用した著者の
識別・同定システムの構築実験を行う環境

金沢大学が手を挙げた理由。RNR編。

実のところ、業績DBとの連携をした元々の目的は、「業績DBから書誌データ＋本文データをもろう」ことだけだった。

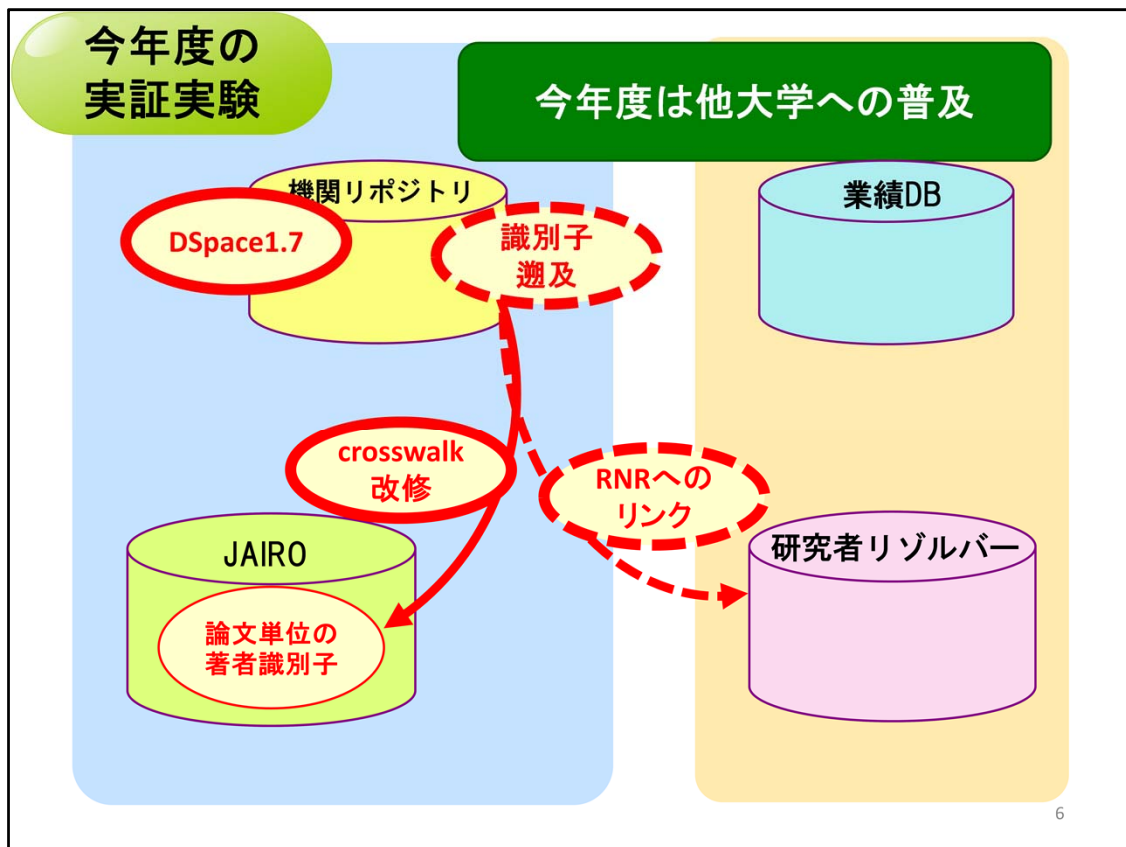


図に示した部分をこれまで実験し、実現した。

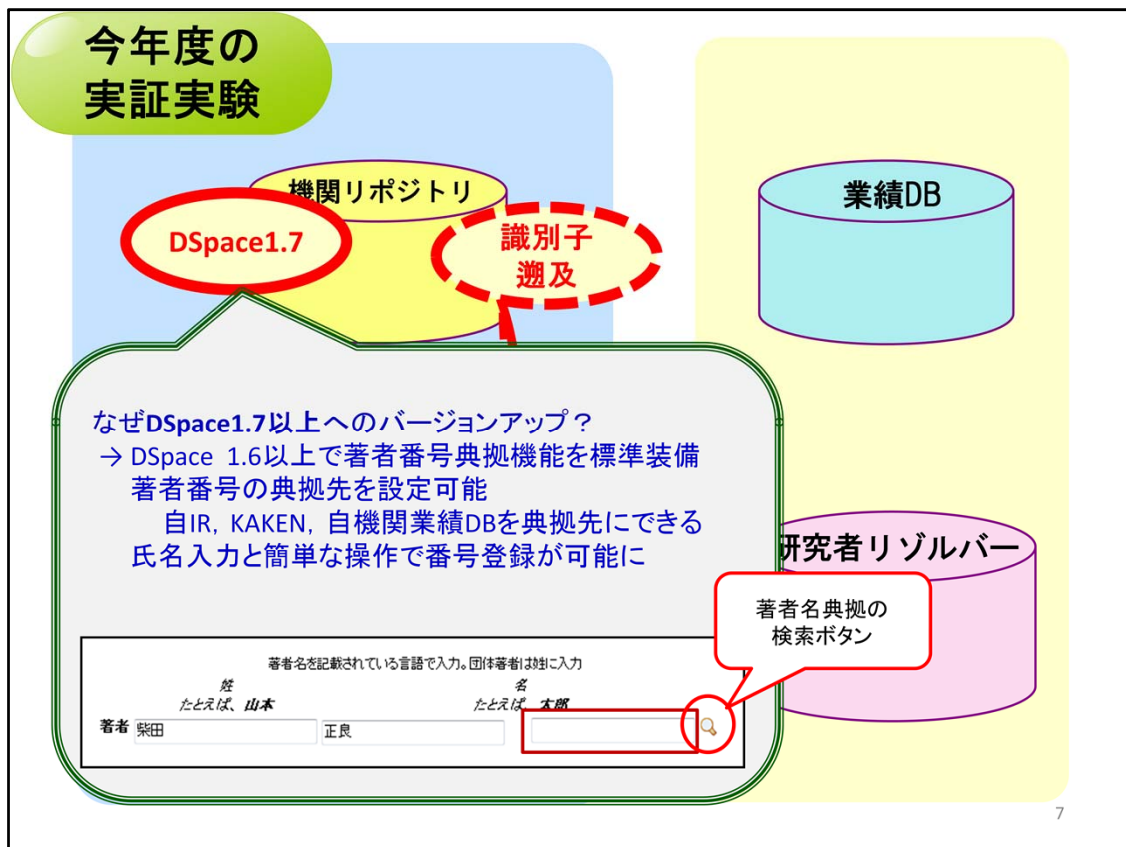
このうち、業績DB→RNRは、可能であるが「普及」させるのは難しいとの認識がある。どうするか？

RNRへのリンクはおまけ。

RNRという略語は初出。略称の説明が必要か。



今年度は、「他大学のIR」にたいして、金沢大学と同様の実験をしてもらい、裾野を広げることを目的とした。
内容は大きく3つ(1.7, 遡及, クロスウォーク)+1(RNRへのリンク)。

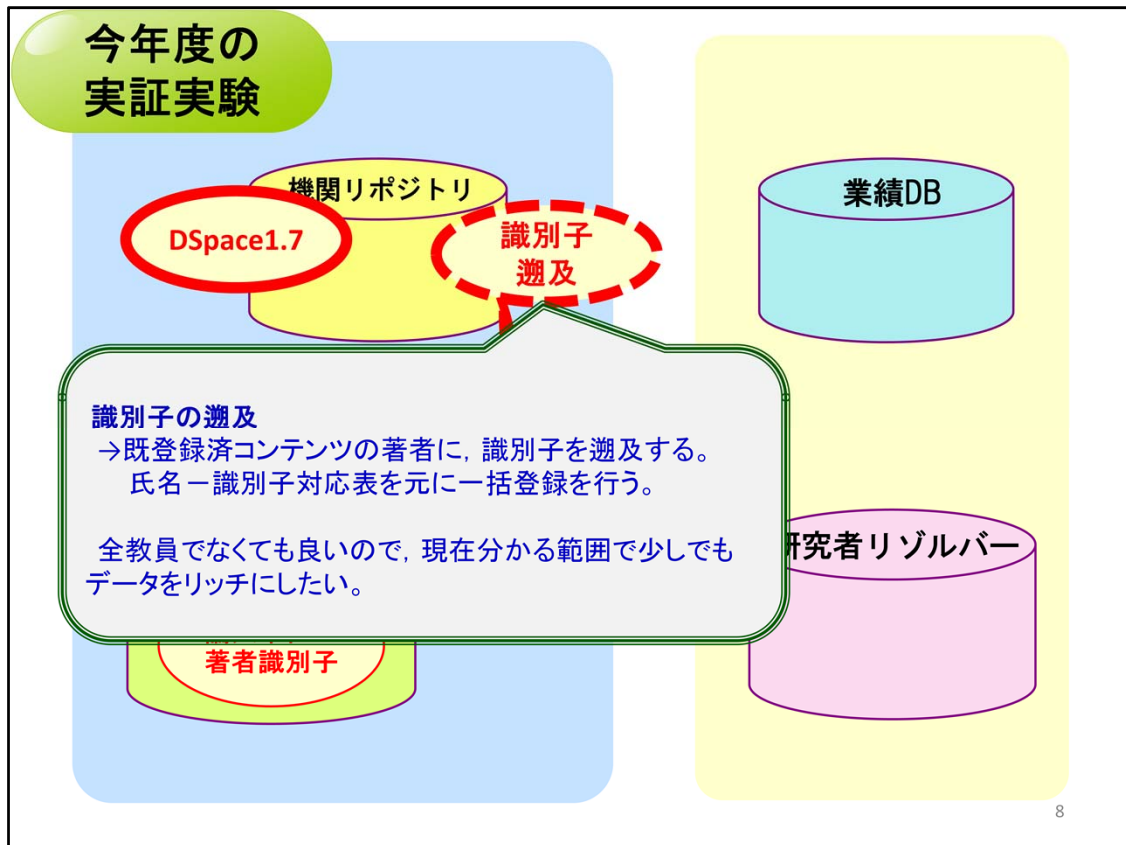


バージョンアップが主目的ではなく、そうすることで、今後の識別子入力の負担が大幅に軽減できていることがわかっているため。実際は1.6以上でよい。

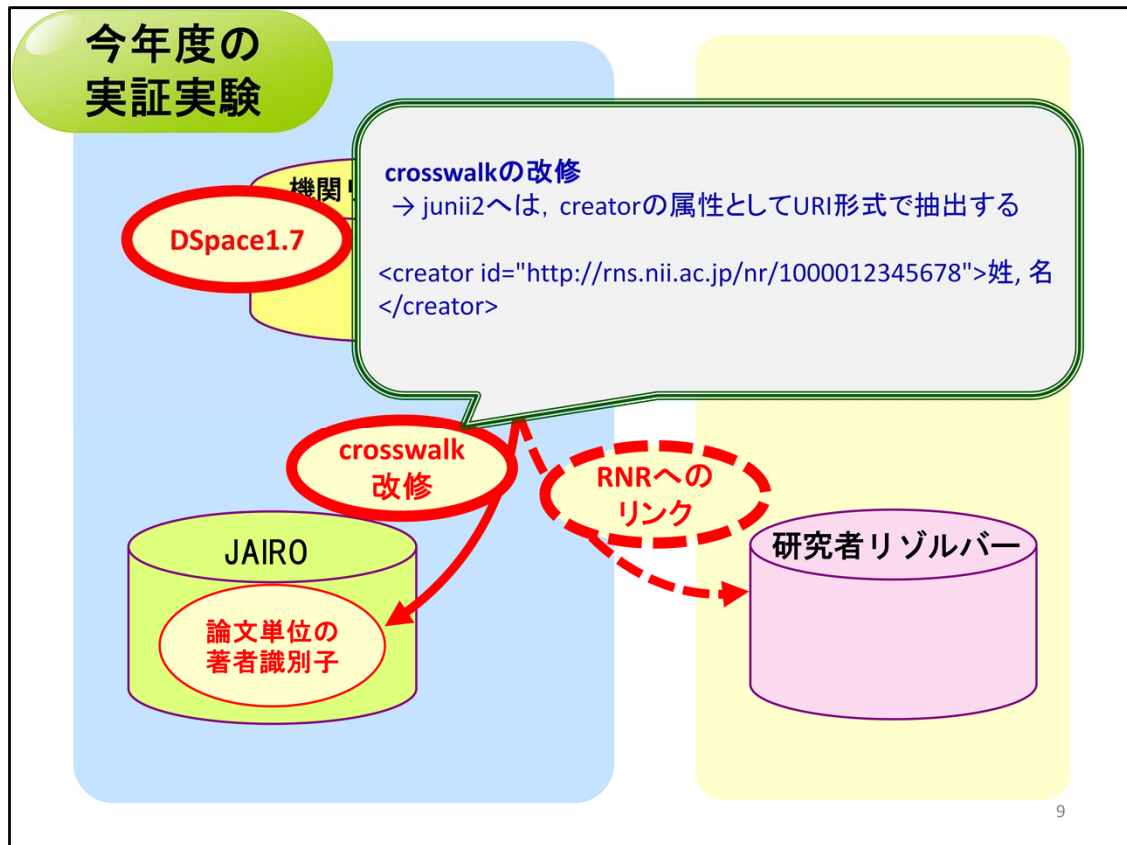
著者名検索で識別子が付与できる一クリックのみで識別子入力可能な機能が標準装備。

改修を考えると、1.4などをカスタマイズするくらいならバージョンアップの方がはるかに楽。

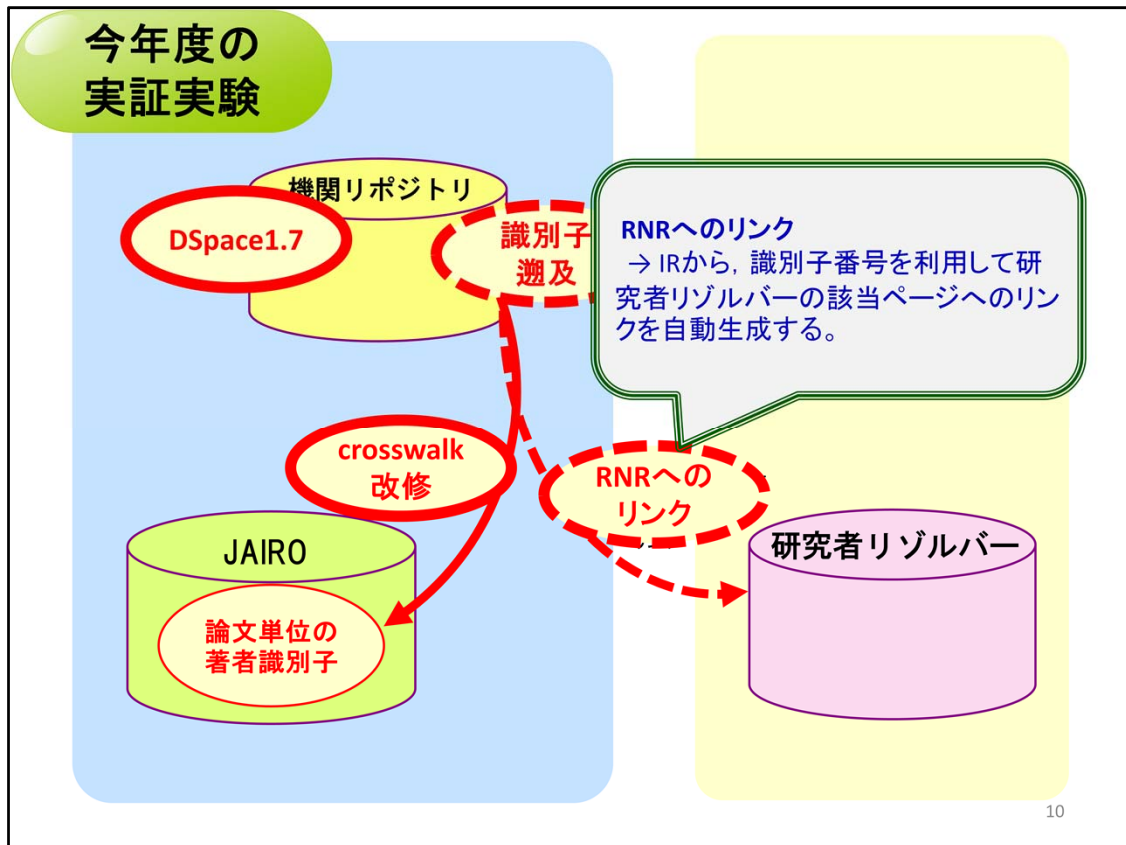
参加機関にとっては、他の機能もバージョンアップされるので、参加に手を上げやすくなるという目論見もないことはない。



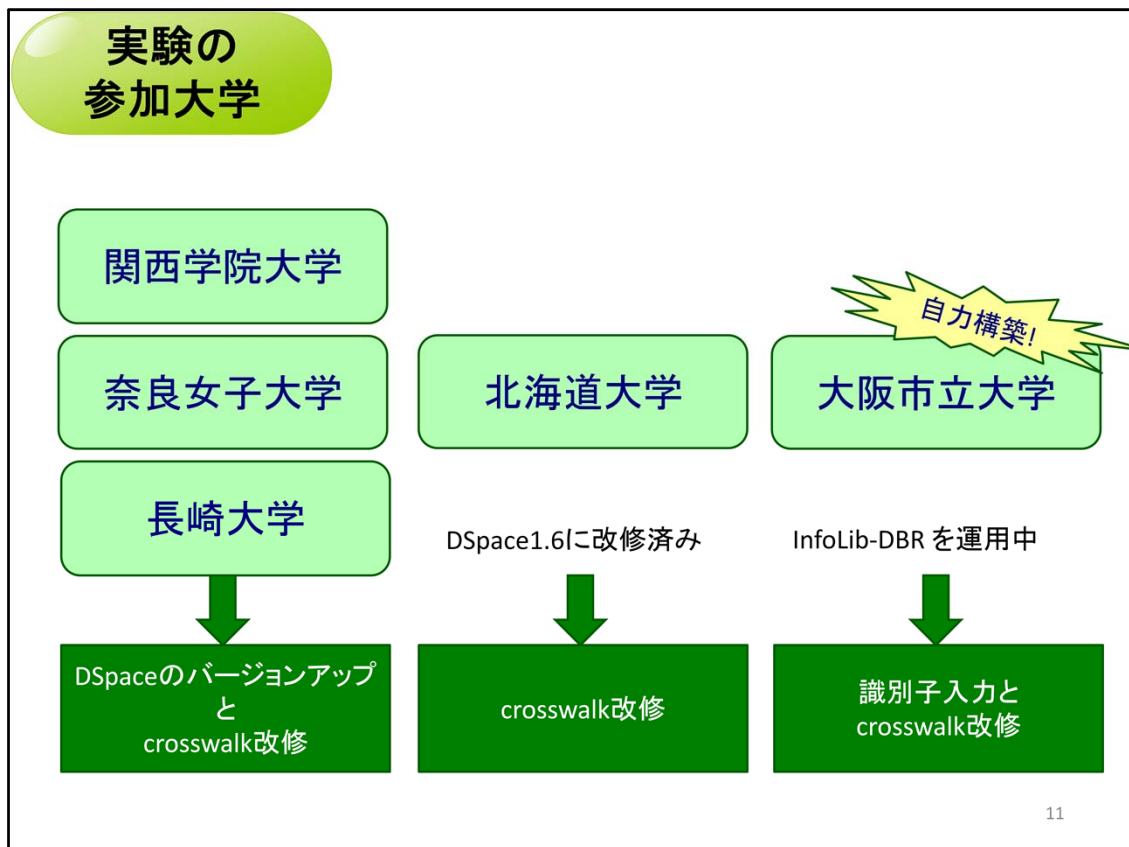
特に義務とはしないが、可能なかぎり行ってもらう。強く推奨。
ただし、既登録アイテムの全員ではなく、分かる人だけでよい。(古い人はそもそも科研費番号すらない)



これは当然の話。



これはついでの話。採用した識別子で自動リンク生成が可能なので、やってみませんか、という程度。
実現しないならそれでもよい。



参加機関は、4大学＋1。
大阪市立は自力構築だが、参加機関扱いとさせてもらった。(ワークショップ会場も提供してもらった)

実験の 進捗状況

進捗状況

北海道大学

2011.12月に終了

長崎大学

2012.1月に終了 → 本日, 作業内容報告

奈良女子大学

2012.2月に終了予定

関西学院大学

2012.2月に終了予定

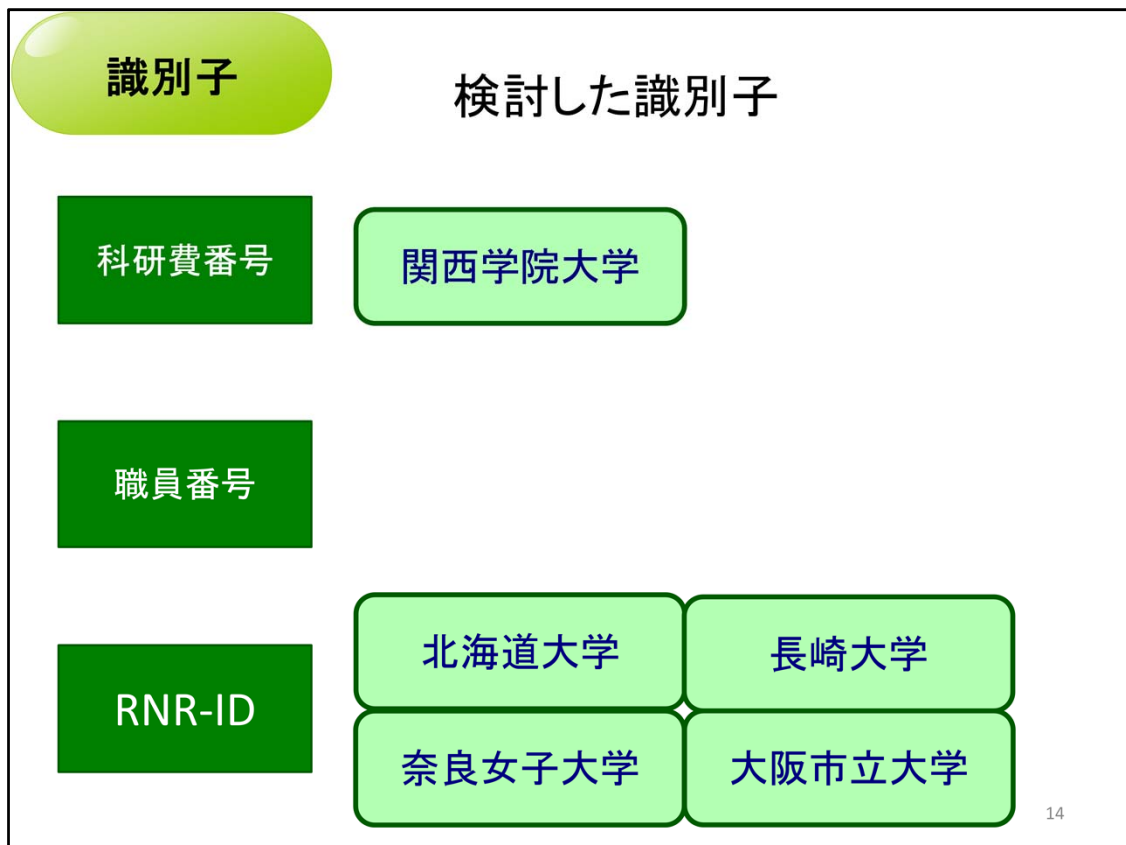
大阪市立大学

2012.1月に終了 → 本日, 作業内容報告

識別子	検討した識別子
科研費番号	<p> JSPS(日本学術振興会)が交付。生涯ID。 科研費を申請した研究者にのみ交付されるので、必ずしも各機関の成員全員が持っているわけではない。 日本における研究者IDとしては、スタンダードといえる。 </p>
職員番号	<p> 各機関が独自に交付。生涯IDとは限らない(同じ番号の使い回しの可能性)。 必ず各機関の成員全員が持っている(はず)。各機関で管理するため、他機関との親和性はない。 </p>
RNR-ID	<p> NIIが科研費番号をもとに、もしくは独自に付与。生涯ID。 必ずしも各機関の成員全員が持っているわけではない。 科研費番号との親和性が高い。また、科研費番号を持たない研究者には独自の番号を付与できる。 </p>

13

各館で検討してもらった。

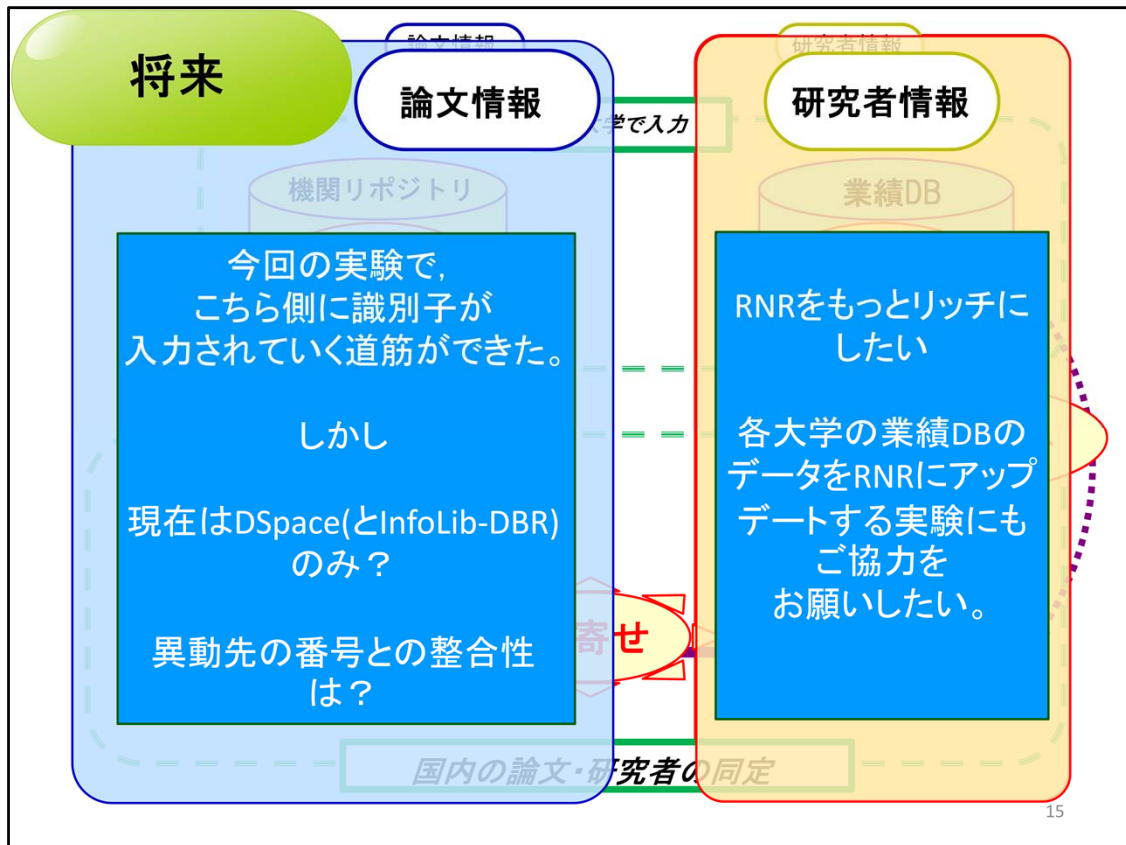


結果, このようになった。

金沢大学は自大学内に科研費番号を管理している部署があるので, 研究者と科研費番号のマッチングリストをもらうだけでよい。

RNR-IDの場合大学内で管理している部署がないので, 図書館でマッチングリストを作る必要がある。

実際の実務内容はこのあとの報告で。



今後は、XooNipsやWEKOなどにも実装してもらいたい。
異動先との整合性は、科研費番号やRNR-IDを使えば問題ないのだが・・・？

RNRの充実をどうするかも課題。

論文の情報と研究者の情報を結び付けたい。